

教育プログラム・コースの概要

| | |
|-------------------------|---|
| 大学名等 | 慶應義塾大学院医学研究科 |
| 教育プログラム・コース名 | がん先端医療研究コース（博士課程） |
| 対象者 | 医学研究科博士課程大学院生 |
| 修業年限（期間） | 4年 |
| 養成すべき人材像 | <p>高尚な倫理観とリーダーシップを持ち、がんゲノム解析を医療に実装できる人材の養成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの病因遺伝子の探索と、変異によるがんの機能変化の解析ができる。 ・ゲノム情報の正確な解釈により、プレジジョンメディシンを実施できる。 ・がんの分子病態機序に基づき、創薬のためのスクリーニングデザインができる。 ・薬事申請等に精通し、先端的ながんの臨床試験を自ら立案し実施できる。 ・遺伝情報を適切に取り扱う事ができる。 ・希少がんや小児がんに対するゲノム解析に基づく新規治療開発に寄与できる。 |
| 修了要件・履修方法 | 主科目（必修）20単位以上、副科目10単位（ただし、自己の所属する分野の主科目と同一の科目を除く）以上、合計30単位以上を履修した上で、履修内容審査および学位審査に合格すること。 |
| 履修科目等 | <p>主科目（必修）20単位以上、副科目10単位（ただし、自己の所属する分野の主科目と同一の科目を除く）以上、合計30単位以上を履修した上で、履修内容審査および学位審査に合格すること。</p> <p>履修科目等： <主科目>・先端ゲノム医学（10単位）・臨床研究学特論（4単位）・臨床研究学演習（4単位）・臨床研究学実習（8単位）・生命倫理学（1単位）・臨床疫学（1単位）・医学統計学（1単位）・医学統計学実習（1単位）<副科目>・基礎腫瘍学（2単位）・臨床腫瘍学（2単位）</p> |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <p>腫瘍の基礎生物学、分子生物学、病理学、免疫学を学び、先端的な基礎研究を行う。さらに新たな治療分子標的やバイオマーカーの探索手法、前臨床試験・臨床開発の進め方について学ぶ。疫学と医学統計学により、臨床研究の方法論の基本を習得する。更に研究のデザインや解析、薬事申請、エビデンス評価等に関する授業を受講し、がん治療薬の安全性確保に役立つ臨床研究を実施するため、薬の市販後調査を含む承認販売後の観察型臨床疫学研究について学ぶ。臨床遺伝学センターの臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーから、適切な遺伝情報の取り扱いや患者や家族への対応を学ぶ。</p> <p>がんプロフェッショナルプラン連携病院と、ゲノム情報・臨床情報のデータベース化とデータシェアリングを目指し、将来的にはオールジャパンのデータベースを構築し、ゲノム解析データに加えて、臨床情報、治療効果情報も共有化し、この情報を用いた創薬を行う。</p> |
| 指導体制 | <p>指導教授：金井 弥栄（医学部病理学（細胞情報研究部門）教授） 指導教授：小崎 健次郎（医学部臨床遺伝学センター 教授） 指導教授：河上 裕（医学部先端医科学研究所（細胞情報研究部門）教授） 担当教官：高石 官均（医学部腫瘍センター 准教授） 担当教官：浜本 康夫（医学部腫瘍センター 特任講師） 担当教官：平沢 晃（医学部婦人科学・臨床遺伝学センター 専任講師）等</p> |
| 教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想 | <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍内科医（がん薬物療法専門医取得） ・がん関連診療科の指導医（がん薬物療法専門医取得） |

| | | | | | | | |
|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 受入開始時期 | 平成30年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 | 対象者 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 | H33年度 | 計 |
| | 医師 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 計 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |